

「サマーキャンプ in ぎふ」参加のための Q&A

Q1. 日本語力はどの程度必要ですか？

A. 各種体験プログラムはすべて日本語で行われます。英語による説明は一切しませんが、日常会話の聞き取りができれば大丈夫です。第1期の学校体験では、通常授業に参加してもらいますが、学年相当の読み書きができなくても、日本の学校生活の雰囲気を感じ、日本の子どもたちとの交流を楽しんでいただきたいと思います。なお、学校体験では学年を下げることもできますが、同年齢の子どもと交流することが重要だと考えますので、あまりお勧めしません。なお、日本語力や学校体験に関しては、主催者の米日教育交流協議会にご相談ください。

Q2. どんな部屋に宿泊しますか？

A. キャンプ場のロッジまたはバンガロー、近郊の学校の部活動や学習塾の合宿に利用される旅館などに宿泊します。部屋の大きさにもよりますが、一部屋の人数は4~5人です。もちろん、男女は別々の部屋です。また、ベッドではなく各自が布団を敷いて就寝します。トイレは洋式もありますが、和式も目立ちます。

Q3. お小遣いはどのくらい必要でしょうか？

A. お菓子や飲み物代、お土産代などとして現金が必要です。宿泊施設では、ジュースやお菓子などが購入できます。お小遣いの金額は保護者にお任せしますが、お金や貴重品はご本人に管理していただきますので必要最低限でよいでしょう。

Q4. どんなものを持って行けばよいでしょうか？

A. 持ち物については、参加者に6月初旬中旬に送付する「参加者ガイド」に記載します。基本的な持ち物は、着替え（長袖・長ズボン含む）、洗面用具、タオル（大・小）、水着、ビーチサンダル、濡れても良い靴またはクロックスのようなかかとの留められるサンダル、屋内用シューズ、バックパックなどです。また、必要に応じて、日焼け止めクリームや虫よけスプレーをお持ちください。なお、移動が多く保管場所の確保も困難なので、大きなスーツケースをお持ちになるのはご遠慮ください。

第1期の場合は学校体験用として、筆記用具、ノート、体操服、無地の水着、ゴーグル、スイミングキャップなどが必要です。中学生・高校生の場合は制服に準ずる服装（白の襟付きシャツ、黒または紺色の長ズボン・スカート *半ズボンやミニスカートは絶対不可。高校生はタータンチェック柄でも可。）を用意してください。

Q5. 期間中に洗濯はできますか？

A. 途中の自由時間を利用して、宿泊施設の近くのコインランドリーにて洗濯することもできます。洗濯の仕方は、現地でお教えします。ただし、洗濯ができないことも想定し、7泊8日分+予備の着替えをお持ちください。

Q6. 持って行ってはいけないものはありますか？

A. ゲーム機、携帯電話、PC、その他貴重品の持込を禁止しています。自然の中で共同生活を楽しく有意義に送るためには必要ないものですし、盗難や破損などの事故を避けるためご協力ください。なお、カメラの持ち込みは可能ですが、活動中の撮影は活動に専念するために禁止します。活動中の写真は主催者や共催者が撮影し、終了後に写真データをお送りします。

Q7. キャンプ中に急用がある場合、連絡できますか？また、様子も知りたいのですか？

A. 主催者の米日教育交流協議会が日本で使用する携帯電話の番号を緊急連絡先としてお知らせします。また、キャンプ期間中に最低1回はE-mailで近況のご報告する予定です。

Q8. 日本の健康保険に加入しているので、海外旅行傷害保険には加入しなくてもよいですか？

A. 日本の健康保険は病気や怪我の治療費はカバーされますが、入院や手術に関する費用はカバーされません。また、主催者はこれらの費用を一切負担することはできませんので、必ず海外旅行傷害保険に加入していただきます。海外旅行傷害保険の加入に関しては、IACE TRAVEL アジア課にお問い合わせください。

Q9. 病気や怪我をしたらどのように対応してもらえますか？

A. 最寄りの病院または診療所にて診察を受け、必要な治療を施していただきます。診察代や治療費、薬代は、主催者が立て替えますので、お迎えの際に現金にてお支払いください。保険の種類にもよりますが、海外旅行傷害保険の場合は一定の金額までは100%自己負担となります。日本の健康保険をお持ちの方は、保険証の原本があれば規定の負担率での支払いができます。なお、医師の判断によっては、キャンプの継続を中止し、保護者の方に迎えに来ていただくこともあります。

なお、主催者や共催者は、切り傷や擦り傷などの応急処置程度しかできませんし、薬の投与も致しません。常備薬をお持ちいただき、ご自身で摂取していただくこととなりますので、ご了承ください。

Q10. 何人くらい参加しますか？

A. 毎回異なりますが、例年各期10~20人が参加します。男女比も様々ですが概ね半々です。第1期では、中学生が3分の2から4分の3、第2期では、小学生と中学生がほぼ同数です。

Q11. キャンプではどのような方が面倒を見てくれますか？

A. 米日教育交流協議会・代表の丹羽が責任者兼インストラクターとして同行しています。また、共催者のやまがたフィットパス実行委員会や協力機関の山里生活体験推進委員会、YACC、鬼頭塾などのスタッフの方々が参加者のサポートをします。

Q12. 実施期間の途中から参加したり途中で帰ったりすることができますか？

A. できる限りすべての期間参加されることをお勧めします。参加されない期間の費用は調整しますが割高になりますし、キャンプ実施場所への送迎ができませんので自力でお越しいただくことになります。また、キャンプ開催後に途中で帰る場合は、原則として参加費用の返金はできませんのでご了承ください。詳細については、IACE TRAVEL アジア課にお問い合わせください。

Q13. 保護者が一緒に宿泊することはできますか？

A. 保護者の方の宿泊はご遠慮いただきます。部屋のスペースに限りがあることや最寄り駅までの送迎ができないためです。

Q14. 集合・解散場所までは保護者が送迎するのですか。

A. 集合・解散場所の JR 東海道線岐阜駅まで、保護者または保護者の依頼された成人の方に送迎をお願いします。お子様が単独で国内移動をされる場合や単独で渡航される場合は、IACE TRAVEL のスタッフがアシストできます。（追加料金が必要です。）詳細は、IACE TRAVEL アジア課にお問い合わせください。

《お問い合わせ先》

米日教育交流協議会(UJEEC) 電話：1-248-346-3818 E-mail：info@ujeec.org

IACE TRAVEL アジア課 電話：1-866-735-4223 E-mail：info@iace-asia.com